

資料提供

令和7年2月28日
課 名：広報課
担当者：吉野
内 線：2370
直通電話：082-513-2378

令和6年度広島県広報コンクールの審査結果について

市町の広報活動の充実を図るため、広島県が毎年、県内市町を対象に実施している広報コンクールの審査結果がまとまりました。

1 入賞団体及び作品（作品内容は別紙のとおり）

(1) 広報紙					
〔市 部〕					
◎最優秀賞	三原市	「 <u>広報みはら</u> 」		10月号	
◎優秀賞	安芸高田市	「 <u>広報あきたかた</u> 」		1月号	
〔町 部〕					
最優秀賞	海田町	「広報かいた」		12月号	
優秀賞	神石高原町	「広報神石高原」		11月号	
(2) 写真					
〔一 枚〕					
最優秀賞	大竹市	「広報おおたけ」	表紙	12月号	
優秀賞	三原市	「広報みはら」	表紙	12月号	
〔組 み〕					
◎最優秀賞	安芸高田市	「 <u>広報あきたかた</u> 」	4～5 ページ	8月号	
◎優秀賞	大竹市	「 <u>広報おおたけ</u> 」	4～5 ページ	1月号	
(3) 映像					
◎最優秀賞	広島市	「 <u>瀬野の歴史を未来に残すSL再生プロジェクト</u> 」			
優秀賞	東広島市	「東広島市制施行 50 周年ショートフィルム 『東広島市 50 年の夢』」			

※ ◎印の付いた作品を公益社団法人日本広報協会が主催する「令和7年全国広報コンクール」に推薦。

2 審査会 令和7年1月9日（木）

【審査員】 村上 美香（「my home town わたしのマチオモイ帖」主宰）
吉宗 五十鈴（世羅高原カメラ女子旅主宰）
石田 伸二（Studio iDaps）
玉川 雄大（広島県広報課 デジタル・ディレクター）

3 審査対象

令和6年1月から令和6年12月までの間に発行、発表された3媒体5部門の広報作品で、20市町から応募のあった51点。

4 表彰

入賞団体へ賞状を送付する。

入賞作品は、記者クラブに展示します。〔展示期間：～3月7日（金）まで〕是非ご覧ください。

この審査結果は県のホームページ（トップ→県政情報→広報・広聴→広報課→令和6年度広島県広報コンクールの審査結果について）でもご覧いただけます。

最優秀賞

三原市「広報みはら」(令和6年10月号)



発行部数(年間発行回数): 32,000部(12回)

■担当課: 広報戦略課

■連絡先: 0848-67-6007

【担当者より(主な記事の掲載意図)】

本号では、35年間の歴史に幕を下ろした「佐木島トライアスロン」をメイン特集としました。この大会は市の離島・佐木島で開催されるトライアスロン大会で、初開催の平成2年から島民のボランティアによる手作りの大会としてアスリートから人気でした。しかし、ボランティアの高齢化などを理由に、令和6年の第33回の大会を以って、惜しまれつつも終了することとなりました。紙面では、これまで島民が手作りで運営し、アスリートたちがを温かく迎えて来た姿、選手達の臨場感あふれる写真とともに大会の歴史を振り返ります。

ページをさくことが出来ない分、写真の配置や文章を工夫してコンパクトにまとめることで、サクサクと読んでいただくことができる、間延びしない紙面に仕上げました。

＝講 評＝

○歴史あるトライアスロンが終わる特集は大変見応えあるし、広報誌として市民に「伝えたい」というメッセージを感じることが出来ていた。

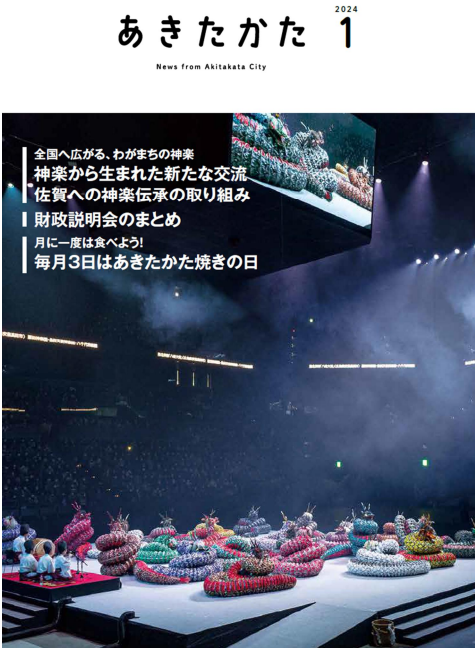
○よく工夫されていて、大会の躍動感や当日の熱気、地域のみなさんの力が伝わってくる。全体を通して、カラーなので読みやすく、イラストやレイアウトなどの工夫もあり若い人にも手に取りやすく感じた。

○レイアウトやデザイン、イラストなどよく吟味している印象。紙面づくりの担当者が楽しんで作っているように感じる。

○要点がまとまっており、長い文章読まない世代にとっても読みやすい。4ページをすごく見応えがあるものにしていて。

優秀賞

安芸高田市「広報あきたかた」(令和6年1月号)



- 発行部数（年間発行回数）：12,150部（12回）
- 担当課：秘書広報課
- 連絡先：082-642-5627

【担当者より（主な記事の掲載意図）】

特集は、全国に広がりを作り出している安芸高田神楽について取り上げた。中でも佐賀県への神楽伝承の取り組みについて深掘りし、佐賀県へ神楽が伝播した物語を紙面で表現。表紙には佐賀県で行われた伝承芸能祭での神楽上演時の写真を採用し、神楽をメインとする紙面構成であることを印象付けた。また、新名物として推進する「ご当地グルメ」あきたかた焼き”の認証店舗の紹介と、あきたかた焼きの日の制定を周知し、積極的利用を促した。

＝講 評＝

- 安芸高田神楽の現状を知る良い企画だと思う。地域を飛び出て県外でも地域の誇れる神楽が活躍する姿は市民でもなかなか知れないことだと思うから。
- 佐賀神楽を通じて、安芸高田の神楽の魅力を伝える切り口が斬新で良い。
- 毎年読むのが楽しみになるくらい、明るいレイアウトで若い人にも読みやすく、他市町村のお手本になると思う。
- 関係者の方々のお話もうまくまとめられて読みやすかった。

最優秀賞

海田町『広報かいた』（令和6年12号）



- 発行部数（年間発行回数）：14,000部（12回）
- 担当課：かいたブランド課
- 連絡先：082-823-9212

【担当者より（主な記事の掲載意図）】

メイン特集である「今をときめくまちのあの人が会いに行く」では、町内サッカークラブのコーチを取材。コーチとしての活動を初め、人となりや町内での学校、地域との関わりを持つ活動内容を紹介した。人のつながりをもたらしサッカーやスポーツの良さ、楽しさを発信し、町内外を問わず、老若男女の方にスポーツや何か物事を始めるきっかけになればと思い掲載。町内の活動をする中で感じた町への思いを引き出し、町民の皆さんへ町の魅力を感じてもらえるような特集とした。

＝講 評＝

- 「今をときめくまちのあの人が会いに行く」はとても良い企画で、まちにこういう魅力的な人がいるんだと気づけると、シビックプライドにもつながるのではないかと。「海田のお気に入り」があるのも良い。
- 広報紙らしい文章と明るい雰囲気を使い分けができていていると思う。
- 全体的にとっても読みやすく、企画もわかりやすく。よい広報紙だと思う。若い町長さんを盛り上げながら、フレッシュな紙面でこれからを感じる。
- カラーで読みやすく、写真やイラストの使い方などメリハリがあって若い人にも比較的手に取りやすい雰囲気作りをしていると思う。

優秀賞

神石高原町『広報神石高原』（令和6年11月号）



- 発行部数（年間発行回数）：4,200部（12回）
- 担当課：政策企画課
- 連絡先：0847-89-3351

【担当者より（主な記事の掲載意図）】

町合併20周年を迎え、町民の皆さまにこの20年を懐かしく振り返ってもらえるような写真や年表を掲載しました。また、これからの町の姿も見えるように町民の方のコメントも掲載しました。

＝講評＝

- 巻頭特集は地域にとっては大きな出来事なので、年表などうまく使い写真と合わせてみるのが楽しかった。
- 分かりやすく伝えようという文章にまとめてあったと思う。
- 「ポジティブに行こう！」のテキストは、本音がのぞいて良い。
- 全体的に写真やイラストを多用し明るい紙面に仕上げているが、どこかバラバラ感もあるので、一本スジが通ったデザインにしたらまとまりが増すと思う。

写真部門・一枚写真の部

最優秀賞

大竹市『広報おおたけ』（令和6年12月号 表紙）



- 担当課：企画財政課
- 連絡先：0827-59-2124

【担当者より（掲載意図）】

「大竹祭」の一コマ。祭り行列の御所車の飾りの前で、同じ年くらいの地域の仲間が、高揚している姿を収めた。

はっぴに染め抜かれた自治会の文字が表すように、紙面で自治会の事を扱った「コミュニティの現在地。」につながるよう表紙に使用した。（実際は直接の自治会行事ではなく神社のお祭りだが、各地区自治会も深く関わっている）

祭りという場で、改めて地域のつながりを感じる1枚にしたかった。

＝講 評＝

○コミュニティの現在地、というテーマにそって祭りでの高揚感を撮影してある。4人ともいい笑顔。空の青さもよい。

○キャプションなどの存在を一か所にまとまっており、写真のインパクトをよく伝えている。

○人だけでなく御所車もうまく配置していること、日差しの強さの割に顔が陰になっていないことなど技術力の高さを感じる。

○様々なシーンを色々な画角で切り取っており、とてもインパクトがある。

優秀賞

三原市『広報みはら』（令和6年12月号 表紙）



- 担当課：広報戦略課
- 連絡先：0848-67-6007

【担当者より（掲載意図）】

季節感を表現した表紙写真です。撮影中も、校正時も「可愛い！」と話題になった1枚です。ゆず湯を楽しむ子ども達の笑顔が印象的に撮影できました。日本らしい行事に触れる機会が減ってきている現代ですが、園児たちに伝統文化に触れてもらうことができたほか、表紙を見た人にも「冬至」「ゆず湯」の伝統文化を伝える事ができたと思います。足で柚子を持ち上げる子どもがいたり、弾ける笑顔で柚子を構える子どもがいたり、すまし顔の子どもがいたり、自然な子ども達の表情や行動に、広報を見た人も自然と笑顔になったはずです。

＝講 評＝

○冬至とゆず湯を表現するにあたり、色々と工夫されているのが良くわかる写真。床や室内の色味も偶然か暖色になっているのがより温かさを表現できているのが素晴らしい。

○イラストとの組み合わせもあり、明るくて温かみのある表紙になっていると思う。

○文字の色や子供達の表情、冬至の季節との事で写真もレイアウトを考えて撮ってあるのでまとまって良いと思う。

写真部門・組み写真の部

最優秀賞

安芸高田市『広報あきたかた』（令和6年8月号 4～5ページ）



■担当課：秘書広報課

■連絡先：0826-42-5627

【担当者より（掲載意図）】

広島神楽関西公演の開催報告記事に、課以上全体の写真1枚と神楽上演中の写真を4枚組み合わせ見開きで掲載。今回で3回目となる関西圏での公演は、これまでの取組で認知度が広がり会場は満席となった。安芸高田神楽の人気ぶりや関心の高さを表現するため、満席となった会場の写真を大きく配置。また、神楽そのものの躍動感や賑やかさ、華やかさを伝えるために演目ごとの写真を組み合わせ関西公演の盛況ぶりを表現した。

＝講 評＝

○会場の賑わいを表現する上できちんと広角レンズを使うなど、誰が見てもわかる効果的な見せ方をされていてすごい。

○文字の配置や大きさ、メイン写真を邪魔しない程度に細長くトリミングした写真など綺麗にまとめているのはさすが。

○舞台の照明のなか、ビビットな色やお客さんの表情もよくとらえている。

優秀賞

大竹市『広報おおたけ』（令和6年1月号4～5ページ）



■担当課：企画財政課

■連絡先：0827-59-2124

【担当者より（掲載意図）】

結成40周年を迎えた和太鼓グループ「亀居城太鼓」の記念コンサートを撮影したもの。大竹市内の複数ある和太鼓グループの中でも草分け的な存在であり、知的障害者に太鼓の指導を行うなど、自分たちの演奏だけにとどまらない活動をしている。その歩みを代表者に聞いて紹介した。また、毎年春に開催されている「亀居城太鼓」の恩師ゆかりのプロ演奏家も特別出演するなど、多彩な催しの様子を伝えたいと考えて掲載した。

＝講 評＝

○カメラを3台使い「チャンスを逃さないぞ」の意気込み通り見応えある写真ばかりで、太鼓のシーンも躍動感を出すためにブラすなど、考えて撮影しているのが素晴らしい。

○法螺貝演奏者を大胆に配置し、視線を釘付けにするあたりのデザインはすごく良い。バックも黒色で写真も締まって見えるし、書体セレクトも上手い。

○カメラマンの切り取り方だけでなく、写真のセレクトの仕方とてもよいと感じる。

映像部門

最優秀賞

広島市「瀬野の歴史を未来に残す SL 再生プロジェクト」



- 放映方法：区役所ロビー設置モニターでの放映、市公式 YouTube
■担当課：安芸区役所市民部地域起こし推進課 ■連絡先：082-821-4905

【作品のあらすじ】

瀬野川公園に展示されている蒸気機関車は、かつて瀬野機関区が置かれ、鉄道のまちとして栄えた瀬野地区の歴史を今に伝える地域資源である。子どもが地域の宝に愛着を持てるよう開催したSL塗装体験イベントを瀬野地区の歴史とともに映像化した。

【担当者より（制作意図）】

安芸区では、まちづくり活動の基本方針の一つとして、ふれあいと文化の薫る交流のまちづくりを掲げ、歴史・文化資源の保存・活用・継承に取り組むとともに、住民が地域を愛する心を育み、交流できるまちづくりを進めている。安芸区の地域資源を映像化し、市公式 YouTube 等で周知することにより、安芸区の魅力を広く発信する。

＝講 評＝

- 古い映像（モノクロ）を集めて、その時代を知る方のコメントを用いること。それを今の世代（公園）で、ひと塗りのおもいでづくりという企画をとらえているところが良い。
- 自分の地域にSLが走っていた事を知れる歴史やイベントを映像で残す有意義な映像にまとまっていて楽しく見れた。
- SLに塗装するというイベントは親しみも生まれ、それを映像化することで愛着につながると思う。
- 子どもたちの表情がとてもよく生き生きと表現されていた。
- 鉄道のまちとして栄えた時代の様子やインタビューとSL塗装イベントの様子を通じて、地域の歴史や特徴を上手く表現できている。

優秀賞

東広島市「東広島市制施行 50 周年記念ショートフィルム 『東広島市 50 周年の夢』



■放映方法：市公式 YouTube

■担当課：広報戦略監 ■連絡先：0824-20-0919

【作品のあらすじ】

舞台は、東広島市を代表するイベント「酒まつり」。20 歳になり初めて祭りにやってきた主人公が過去にタイムスリップ。市の開庁式や新幹線開通など、市で起こった出来事や東広島の魅力ある場所を時空を超えて巡る。最後は HIPPIY さんが酒まつりステージで歌い上げ、市が目指す未来を予感させつつ感動のラストを迎える。

【担当者より（制作意図）】

- ・市制施行 50 周年の機運醸成、市内外への本誌の認知度向上、市民のまちへの愛着醸成を目的に制作。
- ・エンタメ性をもたせつつ、市の歴史や魅力、市の目指す姿をインパクトのある手法で訴求している。
- ・ストーリー性のある映画構成とし、出演者には広島県出身俳優を起用。ドローン映像を取り入れるなど、動画としては長編だが最後まで飽きさせない工夫を施している。
- ・市制施行 50 周年をともにつづってきた市民も多く起用することで、市民から共感を得られる内容とした。

＝講 評＝

- 50 周年記念ビデオとしてちゃんとコストをかけてプロにお願いしているだけあって、大変見ごたえがある内容となっていた。
- 何をどう伝えたいかも明確で東広島市の良さがすごく映像からもわかった。表現力もメインどころに俳優、歌手などがいるだけで映像のクオリティーも高くなるし良かったと思う。
- ストーリー性のある美しい映像に過去の映像を上手く組み込んで、東広島の歩みが良く理解できる企画となっている。
- りこさんや、歌手の方などが、様々なコンテンツをうまくまとめあげている。